



# からしだね

2017年10月号  
(531号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

協力司祭：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) : <http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



共同宣教司牧チームに加わったノノイ・プラザ神父

## 本号の記事の主題など

中村克徳神父による巻頭言	2
「入信の秘跡と聖霊によるしるし」	
司祭チームにノノイ神父様が変わりました	3
日曜学校キャンプの報告	4-5
「ラウダート・シ」研修会の報告	6
平和旬間行事の報告	7
堅信式前の青少年交流会	8

ドレミの会の夏キャンプから	8
大人の日曜学校だより	9
寄稿：又吉さんの「火花」	9
寄稿：松本神父様の形見	10
聖堂床がピカピカに	10
ME ウィークエンドの案内	11

## 巻頭言

## 入信の秘跡と聖霊によるしるし

中村克徳 CP

9月18日に大阪カテドラル聖マリア大聖堂において、前田大司教様の司式による北摂地区合同堅信式が行われ、池田教会から13名の受堅者が堅信の秘跡を授かりました。受堅者の皆さん、堅信の秘跡の恵みおめでとうございます。8教会合同の堅信式とあって受堅者の総数は60余名となりましたが、御ミサはスムーズに進められ、受堅者のご家族や参列した人々にとっても素晴らしい恵みのひと時となりました。式の準備や当日の進行に携わられたスタッフの皆様にご感謝を申し上げます。

古来よりカトリック教会では、洗礼・堅信・聖体の三つの秘跡を「入信の秘跡」と称し、キリスト教信仰の基礎となるものと位置付けてきました。永遠の命をいただくためには洗礼の秘跡だけでも十分なのですが、人間的な成長に応じて信仰をよりいっそう生き生きとしたものに深めていくには、聖霊のさらなる恵みを必要としているからです。歴史をさかのぼって考えてみましょう。

受洗者のほとんどが成人洗礼であった黎明期の教会では、この三つの秘跡は同時に授けられていました。そのために約一年間の求道期が設けられ、四旬節の40日間を入信の秘跡を受けるための準備期間とし、復活徹夜祭において秘跡を授けてきたのです。ローマ帝国でキリスト教が公認された313年以降、教会はヨーロッパを中心として目覚ましい発展を遂げ、次第に成人洗礼の数は減少し、幼児洗礼が大半を占めるようになります。

しかしながら、乳児死亡率が高かったこともあり、幼子には復活徹夜祭まで待たずに洗礼を受けることが急務となりました。この理由には、「幼児であっても洗礼を受けなければ救われない」という、聖アウグスティヌスの神学が根底にあります。入信

の秘跡は使徒の後継者である司教が授けるのが原則であるため、幼児洗礼の度に司教が出向かなければなりません。信者の増加によって新しい教会が次々と建立されたこともあり、司教が幼児洗礼を授けるのは事実上不可能となる事態が生じました。そこで、幼児洗礼と初聖体を司祭に委託し、堅信の秘跡のみ司教が授けるというシステムが整備されたのです。

教会の著しい発展によって入信の秘跡が分離されたことは、本来一つであるはずの入信の秘跡の性格を歪めるものと批判されることもありますが、決してデメリットばかりではありません。入信の秘跡を三つに分けることによって、子供たちの成長の度合いに応じた新たな信仰教育が施され、ふさわしい準備が整ってから初聖体の恵みに与えることができるようになりました。同様に、堅信の秘跡を受けるために、大人のキリスト者に必要な知識と心構えを十分に準備する機会が用意されたのです。

堅信の秘跡は、聖霊によって目に見えない霊印(カラクテル)を押されることである、と表現されます。それは、「あなたは神様によって買い取られたものですよ。その代価は十字架の上で捧げられたイエス様の命です。だから神様の教えのうちに人生を歩みなさい」というしるしなのです。堅信の秘跡は、生涯をキリストの教えに生きるために与えられる入信の秘跡の完成であり、大人のキリスト者としての第一歩です。新受堅者だけでなく、堅信の秘跡を受けた大人の信者の皆様も、この機会に自分がいただいた恵みの素晴らしさを思い起こしてはいかがでしょうか。聖霊はわたしたちを神の愛で包み、風のように吹き抜けていきます。いただいた恵みを感謝するとともに、その恵みにうちに生きることができますように。

## 10月のガラスケースのことば

神は真実な方です。

あなたがたを耐えられないような試練に遇わせることはなからず、

試練と共に、それに耐えられるよう、

逃れる道をも備えていただきます

一コリント 10・13

## 司祭チームに、ノイ神父様が変わりました

9月15日に、ノイ神父様が池田教会に着任されました。17日の主日のミサでは、福音を朗読し、ゆるしについて説教をされました。ミサの最後に畠神父とともに年長者の祝福の祈りを捧げました。「からしだね」に池田教会の皆様への挨拶文を頂いたので、和訳して紹介いたします。

### ノイ・プラザ C.P.

わたくし、ノイ神父の本当の名前(洗礼名)は、ナザリオです。でも友達のみんなからノイと呼ばれています。これは実はニックネームなのです。御受難修道会フィリピン管区に入会して34年経ちます。司祭に叙階されたのは1988年でした。叙階後は管区のさまざまな使徒職や役務に就いてきました。

最初に頂いた任務は忘れがたいものでした。というのは、南コタバトの山地にある御受難会宣教地の拠点本部で、カール・シュミッツ神父様が不慮の死に遭われたとき、亡なられた神父様が残された使徒職にただちに取り組んだからです。カール神父様は1988年4月7日に殺害されました。同年の7月、叙階されたばかりのわたくしは、カール神父様が非業の死を遂げられた、まさにその山地へ向かうように命じられたのでした。その地で、カール神父様がやっておられた現地住民への宣教司牧を引き継いだのです。

一年間続いたこの最初の任務のあと、管区のさまざまな仕事をしました——助任司祭として、のちには主任司祭として働きました。管区顧問も務めました。南コタバトとサランガニ地方の山岳民族宣教地の担当主任に任じられたこともあります。将来、御受難会修道者になる入会志願者の訓練や準備をする養成担当者の任務にも長年たずさわります。

した。

2012年9月、日本の御受難修道会の招きを受けて、来日いたしました。最初は売布にいて、梅田で日本語学習初心者や再学習者のための授業を受けました。そのあと、東京にある御受難会みことばの家の共同体の一員になるように派遣されました。週末には東京や千葉に移り住んだ外国人信徒(主にフィリピン人)のいくつかの共同体で、移住信徒司牧担当者として働きました。

そしてこの10月から、わたくし、ノイ神父は池田小教区で司牧を始めます。日本語がまだ下手なので少し心配ですが、小教区の司祭仲間と共に働き、信徒の霊的成長に貢献していきたいと期待に胸を膨らませております。

(畠神父監訳)



9月17日のミサにおいて、日本語で説教されるノイ神父。

## 10月の教会カレンダーへの追加と変更

10月13日「福音書を学ぶ会」14:00～16:00.

10月14日「ラウダート・シを読み合わせる会」  
13:30～15:30.

10月27日「福音書を学ぶ会」14:00～16:00.

## 待降節黙想会のご案内

11月26日待降節の黙想会があります。指導されるのは梅原彰 神父様(夙川教会)です。

第一講話(ミサ中)と第二講話(ミサ後)が予定されています。ゆるしの秘跡もあります。

研修委員会



## 台風もやって来た池田・日生中央の合同日曜学校キャンプ

夏休み中の恒例の池田教会・日生中央教会の合同日曜学校キャンプは8月6日に日生中央教会で一泊し、時計作りをし、テーマの「主の平和」についての考え、バーベキューや花火を楽しみました。

夜の分かち合いの時間には染野神父様と稲葉神学生、馬場神学生にインタビューを行い、用意した多くの質問の内から子どもたちが選んだ7つの質問への回答には思いがけない答えもあり、楽しい時間となりました。子どもたちが選んだ質問は次の七つ、

1. 名前と洗礼名を教えてください、
2. 口癖はありますか？
3. きらいな食べ物は何かですか？
4. メールを送り合う友達はいますか？
5. ご自分の性格を一言で言うと？
6. 夏休みの宿題は早く終わっていましたか？
7. 最近どのようなことで笑いましたか？

6番目の質問に続いて、子どもたちに今の夏休みの宿題の進行状況を聞くと、「全部終わったひと」はなく、「半分は終わったひと」と「少しやったひと」、「全然していないひと」がそれぞれいましたよ！最後に、逆取材で、神父様から「子どものころ(あるいは現

在)、将来何になりたいと思っていましたか？」と質問を受け、一人ずつ答えていました。

翌朝、台風予報が出たためにパブテスト猪名川キャンプ場での4年生以下の仲間と合流後の企画は延期されて残念がっていましたが、今あるお恵みをめい一杯受け止めて喜びにしていました。このキャンプのために惜しまず協力されたすべての方々に感謝いたします。

キャンプスタッフ

### 青年リーダーの感想

今年は台風の影響で残念ながら一泊二日となってしまいましたが、時計を作ったり、BBQをしたりと、思い出に残る夏のキャンプとなりました。小中学生の元気な姿だけでなく、率先してお手伝いをしている姿に感動しました。また、ただ楽しむだけではなく、今回のテーマである「主のへいわ」について考える時間もあり、短い期間でしたが内容の濃い2日間でした。今回、青年としては初めて参加しましたがまた来年も参加したいです。有難うございました。

青年リーダー

(次ページへつづく)

### 七つの質問への染野神父と稲葉神学生、馬場神学生の回答

質問番号	染野はるお 神父	稲葉よしあき 神学生	馬場つぐあき 神学生
1	染野はるお・ヨゼフ	稲葉よしあき・ヨゼフ	馬場つぐあき・ヨハネボスコ
2	あ一つかれたなあ	まついいか	すばらしい
3	まんじゅう・・・いやなしです	生卵	ありません！
4	んー・・・	染野神父様とメールするんだけど・・・	御受難会、大学の時の友達。迷惑メールも来ます
5	んー下向きかな(うしろ向きではではありませんよ)	おっちょこちよい	嫌なやつ、きっと嫌な奴だと思います。
6	いつもギリギリでした	天気を付ける宿題を忘れていて全部晴れ☀にしたら怒られたことがあります	8月31日にがんばる
7	ドリフターズのコントを録画していてそれを見た時かな	当に今日、みんなと会って久しぶりにこんなに笑ったなあ	幼稚園の土曜学校でこちょこちよこ攻撃を受けて

### 「夏のお楽しみ会」の報告

9月2日(土)、「夏のお楽しみ会」と称し、キャンプのために企画されていた時計作りを親子で行いました。池田教会に20組の親子が集まり、青年リーダーやキャンプスタッフと共に、日生中央教会のスタッフに指導して頂いて世界に一つだけの時計を作りました。

この時計の機械部分はデニス神父さまが園長だった頃にアメリカで買い付けた物で、以前はマリア幼稚園で父の日のプレゼントに時計を作っていました。

た。作り方は、まず、四角いベニヤ板に絵や数字を描き、ビーズなどで装飾をしてから針を取り付けて完成させます。出来上がった時計を見ると、自分の似顔絵やキャラクターを描く子もいれば、惑星の絵や恐竜の絵などの自分の興味関心のある物を一生懸命描いた子もいて、今でも知らなかった子どもたちの一面もみることができました。制作の後はキャンプメニューの美味しいトマトシチューを頂き、キャンプの歌を歌い、みんな笑顔で帰宅しました。

日曜学校サポーター



8月6日  
日曜学校のキャンプ、  
於日生中央教会。

写真は石戸さん  
から。



9月2日  
夏のお楽しみ会、  
於池田教会。

写真は石戸さんから。





## 回勅「ラウダート・シ」について 翻訳者瀬本正之神父が語る

北摂地区社会活動委員会の研修会



7月22日(土)午後2時から、東京より「回勅 ラウダート・シ」の訳者の一人であるイエズス会の瀬本正之神父様を講師としてお招きし、池田教会お聖堂で講演会は始まりました。

暑い中80名を超える方々が熱心に耳を傾けておられました。見回すと半数以上が池田教会の信者さんで、行事の成功を支えてくださる皆様のご協力を有難く感謝の気持ちでいっぱいになりました。

講演の前半では瀬本神父様は6章から成るこの本を大きくSee、Judge、Actの3つに分け、その中に見る5つの「貧困問題と環境問題は同根」「経済を巻き込み政治を左右する技術」「自然の中の人間の位置とその責任」「健全な集団的意思決定を支える対話」「文化を変えうるライフスタイル」という教皇様からのメッセージを分かりやすく解説してくださいました。

講演後半では昨年9月1日を被造物を大切に  
する世界祈願日とされた教皇様のメッセージを一  
緒に味わいました。地球の叫びを聞き、私達の

行ってきた事を思い起こし反省し、悔い改めなければならぬ。私達が便利、簡単と環境への配慮を忘れて快適、便利、手軽なことをむさぼることの弊害を被るのは世界の貧しい、弱い立場の人々である。自分が何かしたこと、しなかったこと、その影響は必ず誰かが、何かを受けることになる…という神父様のお話はチクリと痛いところを突かれたような気持ちになりました。

キリスト者の生活には伝統的な「身体的慈善のわざ」と「精神的慈善のわざ」の実践がありその慈善のわざの対象は人間の命そのものと、その命に含まれるすべてのものであるというメッセージを強く語られました。私は神父様の「神は私達人間に地球を与えられたのですよ!」という言葉がとても心に残りました。簡単な文章のようですが、深くそのことを考えたことがなかったことに気づかされました。何となく生きとし生ける全てのものに地球が与えられているように考えていたのですが、そうではなく人間に与えられたということは、そこに生きる動植物も含めて全てをいただいたということですから大変な責任を負っているのだ、地球温暖化で北極の氷が溶けて薄くなり北極熊が海にずり落ちるのをただ可哀そうにと見ている場合ではないのだ、海面の水位上昇により水辺や水上生活をする貧しい人々も、氷の上で暮らす動物も共に生活の場を奪われるのだと焦りのようなものを感じました。

講演が終わってからカール記念館食堂での茶話会の場であったかと思いますが、なぜ教皇様は宗教者でありながら環境問題についてのメッセージを発せられたのかということについて、瀬本神父様は「もっとはやくこの問題を宗教者は考えるべきだった、遅すぎたくらいですよ!」と仰いました。私達の目はどこがちがうところばかりに向けられて、いただいた賜物をすっかり傷つけてしまいました。先ず私は小さな事ですが脱ペットボトル飲料!そして頂いた地球への責任を負う人間の一人として、環境を破壊するようなものを選択しないというライフスタイルを考えていこうと思いました。

社会活動委員会

8月13日(日) 2017年度平和旬間行事 報告  
**『元国連難民高等弁務官 緒方貞子と平和』**  
 ～NHKスペシャルのドキュメンタリードラマをとおして～



今年の大阪教区の平和旬間は「非暴力による平和、誰もが平和の作り手になれます」というテーマに基づき各地区、各小教区は行事の企画をすることになりました。

これまでの池田教会の平和旬間行事では戦争体験者の方々から体験談をお話し頂いたり戦争や原爆の記録映像の紹介や、戦争で傷つき日常を奪われることの悲劇を描いた本の朗読会などを行ってきました。

私達皆誰も平和を望み、戦争という悲惨な体験を繰り返したくないと思っています。しかし、どんなに破壊的行為で理不尽に苦しむ人々を生み出すことになると知っていても戦争や暴力に傾いていく、あるいは流されていく歴史の繰り返しが第二次大戦後今日まで変わりなく続いているという現実と、昨今は豊かで余力があると思われていた大国も厄介な他者の問題に関わることを避け、むしろ内向きになりつつあることに大きな疑問や恐怖を感じます。

今年の行事を企画するにあたり、「誰もが平和の作り手になれる」というテーマの一文はつまり私達一人ひとりが向き合う他者、意見や価値観の違う相手をどのように許容していくかということ問われているのではないかと考えました。そこで国連という組織の中の最も弱く傷ついた人々を救うための部署のトップという任を負った緒方貞子さんがトップにある者の責任として困難を極める中でも貫かれた姿勢や学びや経験に裏打ちされた言葉の中に多くのヒントがあるのではないかと考え2013年8月17日に放映されたNHKスペシャル「緒方貞子 戦争が終わらない この世界で」の録画を皆さんに見ていただき、分かち合いをする時間にしたと思った次第です。

当日は30人余の方々がかール記念館食堂に集まってくださり、大変熱心に緒方さんの体験の再現ドラマに見入り、インタビューに答える緒方さんの言葉に耳を傾けてくださりました。そしてその後の分かち合いは小グループに分かれて行いましたが、「多様性を認める」「異文化の共存」の難しさをしみじみ感じつつも、であるからこそ相手を知る、対話することの重要性を感じたという感想が各グループ共通にあり、「内向きになることは無知につながる」「自分が良かれと思うことを、相手を知らずに相手にも求めれば、それは押し付けになる」という緒方さんの言葉が印象に残った方が多くおられ自分も内向きになり相手に押し付けを気づかぬうちにしている可能性があり怖くなったという感想もありました。

難民を守るために、平和を維持するために武力を組織せざるを得ないという複雑な現実簡単に解決できない困難さを感じるという感想をお持ちの方もおられました。



最後に参加者全員でシナピスから送られた教皇様のメッセージを元に作成された「平和を祈る」を祈って行事を締めくくりました。

押し付けは不満につながり、不満の爆発は暴力に繋がります。違う言葉、違う環境、違う文化、違う価値観を持つ者同士が相手を知り、相手の求めることを知り、互いが共存していくためにはとてつもない忍耐と努力が必要で、武力やお金の問題にすり替えてしまう方が簡単な選択かもしれませんが、しかしそういう安易な選択はしない、対話による共存をするという事をキリスト者としての自分の使命としてぶれないことの必要性をあらためて感じる機会になったのではないかと思います。

社会活動委員会



## 北摂青少年委員会主催の交流会

9/3 池田教会にて北摂地区青少年交流会が行われました。9/18に行われる北摂地区信徒大会で堅信の恵みを授かる中高生を中心に一部大学生を含め40人、付き添いを含めた保護者27人の参加がありました。

テーマを「青少年の生活と信仰」とし、担当司祭である中村神父様と清川神父様(高槻教会)に堅信を意識して座談会を行っていただき、それを皆で分かち合いました。それぞれカトリック信仰という立場では、非常に対照的な少年期、青年期を過ごされたお二人の神父様のお話は大変興味深く、堅信に向けて良い分かち合いが行えたと思います。

分かち合いのまとめとして、自分が感じた事や堅信の恵みを受けてどのような信者になりたいかと言う事を円形の色画用紙に書き、模造紙に下書きしたロザリオ画に張り付け完成させ、信徒大会にて奉納しました。

### 青少年育成委員会



## 夏のバーベキュー遠足

### ドレミの会

猛烈な暑さの続く、8月12日ドレミの会のバーベキュー遠足が行われました。

暑さに弱いハンディーを持った子たちのことから、何人参加してくれるか不安を抱えながらの実施でした。ふたを開けてみると畠神父さまを筆頭に30名の参加となり、元気に出発です。

心配していたお天気もまずまず、お盆の中日の為か道もすいすいと流れ、能勢の「ダイヘン愛の郷」に到着しました。キャンプ場の方に「今年は暑いから、虫が多いですよ」「へびも出たようです」「ハチに注意してください」などなど注意を受けドキドキでしたが、心配することもなく、和やかに4つの火を囲んで、蟬の合唱を聞きながら、おいしいお肉や、野菜を食べ満たされたひと時を過ごしました。山の木々の間を通る風の、なんと涼しく心地よかったです！

日曜学校や信者の方からスイカを寄付していただき、スイカ割に楽しいひと時をすごしました。あまかった！！ただいつも皆の中心になって活躍してくれた、河野真人くんの姿のないのが、不自然でも寂しかったです。

最後に神父様の祝福をうけて笑顔で帰路につきました！神に感謝！！





## 「大人の日曜学校」だより

### 7月 福音の分かち合い

「耳のある者は聞きなさい」(マタイ13・43)

ある日のことです。

それまで壊れていた、信徒館の応接間の木製の椅子が直った(!)という知らせを受けました。

直して下さったのは、教会の方ではないのですが、何でも、人伝にその事を聞いて、無償で修理をして下さった方がいたそうです。何脚かあるので買えば何万円もしますし、一時はゴミに出されるどころだった椅子でした。

でも、そんな日常のささいな喜びも、私たちに与っては福音です。難しいことはわからなくても、こうした小さな出来事のひとつひとつに、神のみ心が注がれているのを、私たちは知ることができるからです。

今週はいつもより少なめの5名。その日のミサに、さいたま教区から来られていた神父様のお説教がとてもすばらしかったと、話に花が咲きました。

大人の日曜学校では、そんなふうに日常の出来事を楽しく笑い合いながら、みことばをわかち合っています。あなたも日常の中の小さな福音をわかち合いに来ませんか？

### 8月 福音の分かち合い

「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。」(マタイ19より)

参加者8名。シモン・バルヨナ(ペトロ)にイエスが「教皇権」を授ける場面。イエスの信任を得たペトロは、イエスの意にかなう教会建設の基(もと)となれ、と命をうける。のちのカトリック教会がペトロを初代教皇をとみなす根拠である。

参加者の多くがペトロを模範的な弟子とは考えなかった。イエスが何者なのか、ほんとうの意味で理解していたわけではなく、主が逮捕されたときも「イエスなんか知らない」と否定する。だが、こうした弱い人間に教会は託され、いまも私たちのような「小さな人」が連綿と受け継いでいる。凡人や庶民をこそイエスが愛されたことを再確認するうち、日常生活で経験する信仰上の苦労を分かちあつて話は盛りあがってゆく…

研修委員会

## 寄稿:又吉さんの『火花』 (2015年刊) 直

テレビでおなじみ又吉直樹の出世作。どの仕事もその業界特有の苦労がある。吉本の人気者を支えるために、どれだけの売れない漫才師が毎年消えてゆくのだろう。『火花』を読むとそんな思いにかられる。幼い頃から漫才師をめざした徳永が、師とあおぐ四歳年上の神谷と二十歳で出会い、十年後に別々の道を歩きだすまでを描いた、おもしろおかしく、ほろ苦い教養小説。

「漫才師」と「一般社会人」というキーワードで斬ろう。すると作品のはじまりと終わりで徳永と神谷の地位が入れ替わっているのに気づく。神谷は徳永にとって漫才師の神だった。「かみや(!)」なのだ。神谷のように揺るぎない哲学をもつ漫才師になりたい、師匠に弟子入りしよう、と幼かった徳永は信じこむ。そうした出会いと交わりのあとに徳永を待っていたものはなにかを『火花』は語る。つまりは徳永の成長物語。

献身的に神谷を愛した女性には逃げられ、金遣い荒く一千万の借金に首が回らなくなり、人気上昇とともにTVにまで顔を見せるようになった弟子徳永には追いぬかれ、とどのつまり、哀れシリコンを胸に注入して女性顔負けのバストをぶらつかせることで「笑い」を掴もうとする「かみや！」の姿を徳永は目撃する。神ではない。いかに笑ってもらうか、にとりつかれた社会人落第生こそ神谷の実態である。

では弟子徳永は出世街道を歩むのかと言えば、けっきょくこれまた限界を感じて漫才界から足を洗う。不動産屋が次の就職先だ。ありふれた社会人の道である。かつての弟子とは対照的に神谷は漫才稼業を棄てられない。しがみつく。神でも師匠でもなく、単にきまじめで不器用な落ちこぼれ人間にすぎない神谷をみつめる徳永の目は、しかしあたたかい。笑いをとれるかどうか、舞台での十分間にすべてを賭ける真剣勝負を生きねばならない駆けだし漫才師同士の共感があるから。そこにはひとりの人間として成長した徳永がいる。

テレビで語る又吉直樹は寡黙で目立たない脇役が似合いのようだ。一步引いて相手を立ててやるその生き方は、笑いの苦しみを味わい尽くした成熟した人柄を感じさせる。お読みあれ。

## 寄稿:松本神父様の形見

北村

まるで爽やかな精霊の風が通り過ぎたかのように逝ってしまわれた松本神父様。昨年、私にとって父親のような存在のデニス神父様の怪我と帰国、松本神父様の早過ぎるご帰天…と、とても辛い一年でした。

この二つの出来事をなかなか現実の事として受け止めることが出来ず、一年を経過した今でも思い出すと辛くなってしまいます。このような思いをしているのは、きっと私だけではないと思います。しかし、何事も神様のみ旨のままにしか動きませんから、辛くてもしっかりと受け止めねばと祈るしかありません。

ところで、我が家には松本神父様からいただいた形見がある…という事に最近ふと気が付きました。ふと気が付く…というのはおかしな事なのですが、辛い思いが大きくて、そこまで思いをたぐり寄せるのに時間が必要だったという事なのでしょう。年を取って記憶力が衰えたということもあるのでしょうか。

それは、我が家のフェンスの外に置いてある三つの檜の切り株の事なのです。今、私はそれを松本神父様の形見だと思っています。売布の黙想の家で、お墓参りに行こうと山道を歩いていた時に数個の木の切り株が転がっているのを見つけた私は、もし捨てられる物ならいただけないかと思ったのです。イスにするのに丁度良い大きさだったからです。



私の住んでいる室町は、小林一三さんが100年前に造られた住宅街で高齢者が多いのです。室町を歩いてみるとよく分かるのですが、呉羽神社の境内以外には全く木陰がないのです。今年のような酷暑の日射し中で重い荷物を下げて歩く高齢

者の姿は大義なように見えます。私は、その方たちの一時休憩所のような場所が出来ないものかと考えていました。その事を知った松本神父様は、いつものあの爽やかな笑顔で「そんな事なら持って行っていいよ」と二株分けてほしいとお願いしたのに、おまけを一株つけてくださり、しかも座りやすいようにと大工さんがきれいに削ってくださいました。高さ40cmほどの削りたて檜の切り株はフィトンチッドの良い香りがしていました。そして小さくても重い切り株を運ぶため軽トラックまで貸していただきました。

私は沢山の荷物を持ったご近所の方を見かけると「休憩や荷物を置くのに使ってください」と声をかけしています。すると必ず笑顔が返ってきます。

教会の納骨堂には松本神父様が小学校二年生の時に書かれた作文が置いてあります。皆さんもお読みになったと思いますが、その作文を読んだ時神父様の素直で優しいお気持ちに感動したのと同時に神父様のお気持ちを少しでも私も持ち続けたいと思いました。

三年前に切り株をいただいた時には、まさかそれが神父様の形見になるなんて想像もしていませんでした。毎朝窓を開けると切り株が目に入るので、神父様の笑顔を思い出し、思いやりの心を忘れずにいることが出来ます。

また、デニス神父様が長年続けて来られた事に思いを馳せ、切り株の前を通る子供たちに毎朝「お早う、行ってらっしゃーい」と声をかけ、子供たちから「お早うございまーす」と元気の良い挨拶と笑顔が返って来ると、それだけでその日の元気と幸せな気持ちがもらえます。

不思議な事ですが、お二人が池田教会から居なくなられてから、私の心にはお二人のメッセージがなお一層強く響いています。

## 聖堂床がピカピカに

7月の中旬にあった暑気の中弛みが去った8月5日(土)は夏のど真ん中でした。朝早く目覚めた3世代にわたる老若男女が開始時刻の9時前には総務委員の心配を一掃するように20人以上が聖堂入口に集まって来ました。最初に、聖堂全体に薄めた洗剤と電動ブラシで汚れを床から外し、汚れた水を塵取りで回収し、扇風機で床を乾かした後に、ワックス液を塗布し、溶剤を扇風機で蒸発させる一連の作業の手順が手際よく説明された。重いデスクや木



製長椅子、パイプ椅子とピアノやオルガン、数の多いローソク台、書面台、マイク台などを移動させるタイミングも随時指示されて、舞台と信徒席の前方半分、後方半分の床の光沢は順次回復して行く。調度品やテーブル、椅子、楽器、などを配置した時は午後2時を過ぎていました。

酷暑の労働に欠かせない冷たい飲み物と昼食(メニューは盛夏の定番の麺はあるがおいしいオムスビと揚げものや煮物もあり、種々の新鮮野菜、デザート(果物とミルク菓子)は地区委員会によって準備されました。

(写真上) 清掃された床は鏡面のように光っています。  
(写真下) プロ?が電動ブラシを使い、中村神父さんと信徒さんが汚水を集めています。



## マリッジ・エンカウンター・ウィークエンド ご案内

日時:平成29年11月24日(金)20:00  
~26日(日)17:00、

場所:御受難修道女会売布修道院、  
お問合せ:赤井政昭、ひろ子(075-751-7767)

マリッジ・エンカウンター・ウィークエンドとは  
(略称:MEウィークエンド)

MEウィークエンドは、家族をはじめ人々との関わりの基本となっている夫婦の関わりを、対話を通して深めていくことができるように考えられています。それは自分と相手との関係、自分達と神との関係を深く見つめる機会です。結婚生活をより豊かなものにしたいと思うご夫婦であれば、結婚年数に関係なく、どなたでも参加できます。但しご夫婦でご参加ください。(司祭、修道者も参加することができます。)

申し込み締め切りは10月末日です。赤井までよろしくお願いします。

マリッジ・エンカウンターおよびMEウィークエンドの紹介はHP[www.wwme.jp/](http://www.wwme.jp/)、世界各国の活動は[www.wwme.org/](http://www.wwme.org/)で閲覧できます。

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■日帰り黙想会

10月19日(木)10:00~15:30

10月20日(金)10:00~15:30

指導:山内十束神父



### ■週末黙想会

10月28日(土)17:00~10月29日(日)15:30

指導:山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

## 編集後記

8月、平和旬間の行事として、緒方貞子氏のDVDを鑑賞した。まだその余韻が冷めやらぬ後日、氏が留学先で発表した論文(1964年)の日本語訳『満州事変』緒方貞子著(岩波現代文庫2011年復刻版)を、偶然手にすることができた。

本書は、多方面から満州事変を検証され、氏ならではの感じ入った。特に、満州国設立の過程は興味深く他の項目も、まさに教科書では学べない事柄ばかりであった。最後に、“満州事変以降に残されたものは、合理的で、一貫した外交政策を決定、実施することの出来ない「無責任の体制」だけだったのである。“と、氏が結ばれている言葉に私は、氏が『満州事変』をテーマにされた出発点があったのではないかと思えた。

天使の微笑

※満州事変…1931年(昭和6年)9月18日中国東北部の奉天(現在の瀋陽市)で起きた満州鉄道爆破事件。これを機に、日本の現地駐留軍(=関東軍)が満州全土を占領していく。